

オペラ Opera 11

2008.6 (社)日本作業療法士協会広報誌

JAPANESE ASSOCIATION OF OCCUPATIONAL THERAPISTS

【特集】スペシャル対談

私の音楽と身体のハンディは
ひとつのもの

米良美一・杉原素子

【青年海外協力隊】パラオ

本当にやりたいことが見つかった

作業療法士 松島佳苗さんの体験レポート

Let's create 職場復帰援助プログラム

職場に戻る力を再獲得するための
リハビリテーション

作業療法士 岡崎 渉さんに聞く

SNAPSHOT

障害があっても仕事はできる

作業療法士 梶 直美さんに聞く

介護保険で利用できる 福祉用具の選び方

ポータブルトイレ

Let's challenge 片手でやってみよう

上着を着る





【特集】 スペシャル対談

私の音楽と 身体のハンデは ひとつのもの

ちょうど10年前、映画「ものけぢ」の主題歌を歌って一躍脚光を浴びた米良美一さん。
カウボーイ・テナー歌手として世界的活動を続けるが、8年ほど前に大きな壁にぶつかる。
あらたな道をさぐる苦闘のなかから見事な復活をとり、
「先天性骨形成不全症」という難病と闘った半生を自ら語りはじめた。
日本作業療法士協会会長・杉原素子が、
36歳になった米良美一さんの熱い心のうちを聞いた。

養護学校・病室・リハビリ室

●宮崎県のご出身とお聞きしていますが、まず幼少の頃のお話からお聞かせいただけますか。

●私が生まれたのは、宮崎県でも九州山地の天孫降臨の地といわれる場所です。日本の神話が息づき、森羅万象に対する畏怖畏敬の念が、生活の中で常に教え込まれる環境の中で育ちました。

生まれた時、私の足を大地に向けて立てるようにしてくださいましたのが、理学療法士の先生でした。成長するにつれて、頻繁に骨折するようになりまして。何か月もベッドに縛りつけられていると、身体の機能がすべて低下して、歩こうとする気力も、起きあがろうとする気力も、支えようとする気力もなくなっていました。

ます。そのたびにリハビリ室に通って、痛みと闘いながら頑張るのです。それを支える作業療法士や理学療法士の先生は、ほんとうに大変だったと思います。

リハビリは嫌いでしたが、作業療法士や理学療法士の先生には仲の良い方がいました。思春期の頃、相談に乗ってもらったりして、心のケアも含めて肉体の機能を回復するため、すこくお世話になりました。

生きながら生まれ変わる

●高等学校まで養護学校におられたということですが……

●小学校の高学年から中学1年までの4年間以外、小学校1年から高校

3年まで、養護学校の寄宿舎生活でしたが、養護学校は、厳しいところですが、社会から隔離されているため、社会性が身につかないのです。もちろん、感謝すべきことはたくさんありますし、素晴らしい体験もできました。でも、18歳になればいきなり厳しい社会に放り出されます。

そんな状態で東京に出てくると、「自由」が目の前にあります。それまで半屋に閉じ込められているような気分だった私は、解放されたと感じます。友達との関係で我慢すべきとか、譲るとかということができていないことすら、自分ではわからないのです。若いうちはみんな身勝下ですから、まだ良いのです。ところが、みんなは就職してイヤでも社会性をたたき込まれます。私

の場合、就職の経験もなく、音楽大校の中で才能があれば何でも許されるような風潮の中において、いきなり有名になってしまいました。

そんなふうにして30代になると、きつくなってきます。きれいな顔と、きれいな肉体と、バランスのとれた骨と筋肉があれば、まだごまかして生かしていけます。ところが体力のない私は大刀打ちできません。頼りになるのは魂の成長しかなくなるのです。生きながら苦しむ、闘い、生まれ変わるしかなくなるのです。

ほかの人たちと共に救われる道

●ご自身の人生を人前で語られることになったのは、何かきっかけがあったのでしょうか？



米良美一
Yoshikazu Mela

●もともと40歳になったら言おうと決めていたのですが、5年早まって35歳を迎える頃に語るようになりまして。それというのも、最近では、親が子を殺したり、子が親を殺したり、見知らぬ人を刺し殺したりということがたくさん起っています。

私がどういふ想いで生きてきて、今も生きているか。どういふ想いで出ない声を絞り出して出る声にしたのか。動かない筋肉や曲がった骨を持った人間が、まっすぐの骨の上に健全な筋肉の付いた人と肩を並べてやっついていくために、どれほど汗と涙を流しているか。こうしたことを、みなさんに話して、「こんなポロポロな人がいる」「こんな想いをして生きている人がいる」と思って、自分も頑張って生きてみようとする人

がひとりでもいたら、お役に立てるのかなと思っただけです。でも、あとから思えば、一黙っていても、うまくいかないのなら、今度は言ってみよう」という聞き直りみたいなものだったと思います。まったく逆の発想にいっただけです。

●カミングアウトしたことで、やはり楽になった……？

●胸を張って人前で語れなかったことを語ったわけですから、仏教的に言うとかルマが清算できたのかもしれない。でも、生きながら生まれ変わることによって、今度はレベルの高い人生が新たにスタートさせられたのです。肉体はそのまま、肉体についての意識が変わらないと、魂を動かして続けることはできま



杉原素子
Motoko Sugihara



せん。そういう意味では、もうひとつ上の、より苦しい課題が与えられている、と思っています。

●「レベルが上がる」というのは？
●たとえば、それまでは自分の人生を語ることによって、人を救ったり励ましたりしていた部分もあると思いましたが、レベルが上がるとそれを味わう楽しみが取り上げられるのです。肉体的なハンディがあり、養護学校という社会から隔離されたところにいたため、私は、ひとにやん



ていただくことに慣れて、被害者意識の塊になっていて、人や社会との関わり合いを取りこぼしてきまして。

肉体には不具合があっても、ひとりよりも大きなエネルギーを持っているため、心が少しでも悪魔のようになると、すべての現象を破壊してしまふほど恐ろしい強さが私の中にあることを、自分であまり意識しないで生きてきたのです。自分より苦しんでいる人、手を差し伸べて、ほかの人と共に救われる道を考えることは、それまでにない発想なのです。

与えられているものに感謝の念

●思春期まではかなり辛い思いをされた、とお聞きしていますが……。
●私の人生は、肉体的な痛みとの付き合いで、安心して生きた時期がありません。だからバチがあたるという発想がびつたりなのです。意味もわからず、全身の骨が年がら年中折れていたら、バチという発想になります。そのバチがあたるという発想も、私の中では重要なポイントです。私がバチというものを作り出して、そういう関係を神様と結んでしまっているのです。そのバチから抜け出すのは、ほんとうに大変です。でも、バチの要素の中にも良い部分があります。その中で残されなければいけないのが、畏怖です。昔の日は

はひとを差別することによって優越感をもち、自分の白信のなさから目をそらします。それが人の性なのです。

まず、自分のことをきちんと感謝し、自分の弱さから逃げないで、自分の悪い心に常に目を向けていく。それが、苦しんでいる人の心を理解する一番の早道かもしれません。健常者は、ひとの心の痛みや身体の痛みや苦しみがわからないことが、かわいそう。身体障害者は、自分の肉

リハビリ室のコンサート

●さまざまな施設にも行って歌っていらっしやるのですね。
●知的障害者の作業所、養護学校、老人ホーム、刑務所などに行っ歌っています。みなさんを慰めてあげたいとか、励ましてあげたい気持ちがいっぱいとかという、実はそうではない、本当はフタをしておきたいところ、隠れみでは行けない、そこにいる人たちの苦しみは容易に想像できる場所です。ただ私は、いい気にならないためには、自分の原点を忘れてはいけないのです。だから、自分のために行くのです。歌う場所は、リハビリ室が多いで

す。自分がかつて汗と涙を流し、痛い痛いと言いながら足の曲げ伸ばしをしたり、言うことをきかなくなってきた指を柔軟にするために、作業療法士や理学療法士の先生に訓練してもらったりしていたところで歌うのです。また、同郡部落の人権啓蒙の講演、PTA大会の講演、身体障害者・知的発達障害者の方の会合での講演などが増えています。

神様から声を借りて歌う

●米良さんの音楽への想いを……。
●病氣は疫病神なのか、それとも自分を見つめる鏡なのか、それぞれの人によって異なります。病氣は、時として人の精神や魂を育てることもあります。

私には、身体のハンディと音楽がセットで神様から与えられています。身体が動かなくて悶々とする想いが音楽に乗り移るから、私の音楽が人の心の奥深く届くのです。私の特性は、身体のハンディ抜きには考えられないのです。

私の歌は、これみよがしの歌ではないのです。私は、これといった宗教に属しているわけでもありませんが、神道が好きです。祝詞や御題目のように人に入っていく歌でありたいと願っていますから、いつも浄化された状態を保ってなければ、神様は声を貸してくれないのです。

本人が持っていた畏怖畏敬の念には、バチという要素も含まれていますが、私にはそれが少なくなってきました。甘んじてその現実を受け入れようとしているのです。

●「ものけ姫」の主題歌で脚光を浴びましたが……。

●社会の底辺で生まれ育った私が、東京に出て音楽大学に入って首席で卒業し、ヨーロッパに留学をして、26歳の時に「ものけ姫」の仕事が来て、みなさんに支持されました。人智を超えた大きな力が働いている、としか思えません。

そういう大展開がなければ、障害者としての人生を歩めたはずですが、でも、身体にハンディがあるのに「健康です」という顔で歌っていることによって、ありのままを受け入れられていない自分に気づかされました。ハンディを持った人間というポジションにいるべき私が、まったく違うポジションに置かれてしまっていて、自分が当たり前と思っ生きている世界観が通用しなくなってしまう。なおかつ、健常者でも巻き込まれたら翻弄されるような、世の中のあらゆる想念に巻き込まれてしまった。30歳ぐらいで、そんな自分の肉体の足りなさとか、努力していない部分がたくさんあることが突きつけられれば、自信も喪失するし、い

そのように歌うことで、コンサートに来てくださった方々に少しでも清らかなものや愛の波動を感じていただいで、見知らぬ人に少しでも優しい気持ちで接していただけたらお手伝いしたいのです。それがたぶん、私も儚しくなる道なのです。

つたい自分は何をやってきたのだろうと考えてしまうのです。

●障害者と健常者ほどのような関係を結べば良いとお考えでしょうか？

●私のコンサートにはいろんなハンディのある方も来てくれます。みんな明るいのですが、表面的です。それを社会も強要しています。健常者の方たちは、ハンディにへこたれずニコニコして、愚痴も言わない障害者を求めているのです。「米良さんは、背も低いのにあんなにニコニコして歌っているのよ」と、子どもに言う教育がおかしいのです。

昨年、本を出しました。どういった思いでこれまで生きてきたか、ありのままに書きたかったのです。もっと辛い表現ができませんが、あまりえぐいものを書きつけても読まれないし、逆にそれは「健常者いじめ」と思ったから、細心の注意を払って書きました。

人は、魂の体験ができないものは理解できないのです。そこが重要な点です。私は、健常者の気持ちはわかりません。スポーツマンのさわやかな感覚や屈託のない笑顔がわからないのです。だったら、与えられているものに感謝するしかないのです。健常者は健常者であることに感謝すれば何かが見えてくるはずで

●米良美一さんの本●
天使の声
生きながら
生まれ変わる
米良美一 [著]
大和書房 [発行]
ISBN978-4-479-01197-2
定価1,400円＋税

対談をおえて——杉原素子

米良美一氏が、宮崎県出身で、「三途降臨」の地で、神話が日常的に語られ、自然に対する畏怖畏敬の念が当たり前の環境の中で生まれ、育ったというお話しに、高千穂を訪ねたことのある私は、そこで夜な夜なお神楽を見に出かけたことが、米良さんの育った環境を少しイメージできてほっとしました。都会ではあまり聞かない「バチが当たる」という言葉は、あまりにも痛い体験とのつながりで、どのように幼いころから受け入れられていたのかは、正直言うと私には想像を超えていて、今でもわかりません。小学部から高等部まで寄宿舎で過ごした養護学校生活を米良氏がどのように思われていたのかは、そのことを聞くと、「家庭から離れての養護学校の寄宿舎生活は、良いはずがありません」と断言され、「家庭にいればまだまだ親がやっていることを、寄宿舎では幼いのに自分でやらなければならぬのが見ていられた」と、母はとて悲しんでいたと、も言われました。長い間の養護学校生活では特に思春期のころに、作業療法士や理学療法士が登場し、氏の成長にプラスの影響を与えたとかうびり語っておられました。また、音楽のための留学体験のことをうかがうと、「外国に行く場合には、自分の国や自分のことがある程度わかっ出て出かけるのでなければ、何の意味もありません」と、ご自分の留学体験について言葉少なく、細かくおられました。

生まれながらに障害を持ち、その障害が幼い頃には耐えるのがやっとの痛みを伴うものであったことを、「バチが当たった」と受け入れ、今の社会の偏見や差別の中で、「自分は何のために生きているのか」と考えると、来世のために今を生きているかと思ったりしている、と言われる36歳の方です。同行した協会広報部の若者は、ちゃっかり色紙を一枚用意して私の分までサインをいただいていたが、私にはそのような現実の世界がどう



右/下を向いて手元を見ることでできない子のために、ダンボールで斜面台をつくった。足をしっかりつけられる台を置き、身体を起す工夫もした。この台を使って絵を描いたりしている。

左/オフィスの外観。Physical Therapy (理学療法) の看板の下に、手づくりのOccupational Therapy (作業療法) の看板。この自転車でコロール島内を巡回した。



自分で食事ができるように練習。その後、横にいる先生のサポートで給食が食べられるようになった(本文参照)。

事をしていて、学校でも給食を食べたことのないお子さんがいました。身体を起して、工夫したスプーンを使って練習すると、先生のサポートがあれば自分で食事をする事ができるようになります。その子のできなかったことができるようになると、先生といっしょに喜びを分かち合はん嬉し瞬間でした。

作業療法士になって4年間、私は日本の病院で仕事をしてきました。が、小児のリハビリテーションの経験は、実習以外にはなかったのです。そのため、本を漁んだり、インターネットで調べたりしました。でも、いちばん助かったのは、日本にいる恩師や作業療法士の知人に相談できたことでした。

その人ができることを伸ばし、できないことを少しでもやりやすくすることによって、障害があってもその人らしく生活できるようにする。こういう作業療法士の視点は、成人



集中力を保つのがむずかしい子は、認知レベルに合わせて達成感ももてる活動を導入した。

でも小児でも同じであることがよくわかりました。

今度は海外に出ている作業療法士を支える側に

パラオの海はとても美しく、そこに暮らす人たちは、隣近所だがいに助け支えあっています。私も、近所の人から魚やバナナなどをよくいただきました。そして、2年間障害児のリハビリテーションを体験してみ、これから子どもさんの支援にかかわる仕事をしたい、と強く思うようになりました。パラオの経験の中から、自分が本当にやりたいことを見つけ出すことができたのです。

今は、文部科学省がうちだしている特別支援教育にもみられるように、リハビリテーションと教育現場が近づいていく流れになっています。でも、そうした仕事をするには、自分の知識が足りないこともわかり



スプーンの握る部分を太くして、さらに洗濯機のホースをかぶせ、ザラザラ感があって握りやすく工夫した。また、まったく握れない子には、マジックテープでとめたバンドで手に固定できるようにした(下)。



青年海外協力隊
パラオ

本当にやりたいことが見つかった

日本の病院で成人のリハビリテーションにかかわってきた松島佳苗さん。『今しかない』とパラオに行き、障害児たちと向き合ってきた。そこでつかんだものは……。

第一子を出産したお母さんをお披露目するパラオの伝統的儀式



作業療法士 松島佳苗さんの体験レポート

私が赴任したのは、障害児のための教育プログラムです。そこは、パラオ共和国教育省の一部門ですが、アメリカの財政援助で成り立っています。0歳から20歳までが対象になっていて、無料でリハビリテーションも教育のサポートも受けられるようになっています。

パラオで最も人口が多いコロール島にオフィスがあり、私は毎日、そこに出勤します。常勤の作業療法士は私が初めてでした。それまでは、年に1回はグアムやハワイから作業療法士が来て、学校の先生にアドバイスをして帰っていきましたから、パラオの人には継続的に作業療法のサービスを受けた経験がなかったのです。

私は、できるだけお子さんの自宅や学校に自分で出向くようにしました。両親が忘れてお子さんを連れてこなかったり、オフィスの中では私が何をしているのか、現地の人たちに伝えられないからです。コロール



松島佳苗さん
2001年 作業療法士免許取得
2005年7月～2007年7月 青年海外協力隊としてパラオに赴任
2007年10月～2008年3月 大阪府東屋川市立あかつき・ひばり園に児童指導員として勤務
2008年4月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程に入学

鳥の中は自転車、橋でつながっている別の島には車、そのほかの島にはボートに乗せてもらって巡回します。

そのため、20人ほどのお子さんを担当していましたが、巡回できるのは、週に数回、2週間に1回、月に1回、2カ月に1回、1学期に1回というように、頻度はまちまちです。行ける回数が少ない場合は、学校の先生と前回からお子さんの状態の変化などについて十分に話し合うようにしました。また、ダンボールでつくった簡単な玩具や写真にコメントをつけて体操の仕方などを示したものなど、具体的に実践可能なものを置いていきました。

学校の先生たちと喜びを分かち合いながら

教育現場で、さまざまな先生方と接する機会を得ることができました。たとえば、家では寝た状態で食

ました。そのため、大学院でもっと勉強することにしたのです。

現在の職場では、作業療法士としてではなく、児童指導員として働いています。そこで、生活の中に入っているのか、子どもたちがどんなことを困っているかといったことなどを、実際に体験しながら勉強しています。

海外に出るかどうか迷っている人がいたら、「ぜひ一度協力隊の試験を受けて、一歩踏み出してみてください」と伝えたいです。大変なことは、日本にいても海外に出ても同じです。パラオにいた時、日本にいた作業療法士の方々に支えられたように、今度は私が支える側にまわりたいと思っています。私は、作業療法士の仕事が大好きですから。

(これは08年3月の談話を編集部でまとめたものです)

職場に戻る力を再獲得するためのリハビリテーション

作業療法士
岡崎 渉さんに聞く



岡崎 渉さん
1971年生まれ。2001年作業療法士免許取得
2001年4月より、NTT東日本関東病院精神神経科に勤務
<http://www.ntt-east.co.jp/kmc/sinryo/19program.html>

うつや統合失調症などの病を克服し、やっつとで職場に復帰した。だが、大きなストレスにさらされて再び体調を崩し、会社を辞めざるをえなくなってしまった。これでは、耐えがたいほど辛いし、生計も立たない。当人はもちろんだが、有能な人材を失う企業にとっても大きな痛手である。復職に向けたリハビリテーション、**「職場復帰援助プログラム」を提供する施設はまだまだ少ないが、徐々に増えている。そのひとつ、NTT東日本関東病院精神神経科を訪ね、作業療法士の岡崎渉さんにプログラムの内容などについてお聞きした。**

毎朝、作業療法室に「出勤」

プログラムは、月曜日から木曜日まで、毎朝9時半から2時間、病院の作業療法室でおこなわれる。月曜日と木曜日は、明るくゆつたりとした雰囲気の中で、パソコンで文書や表を作成したり、資格試験の問題集や心理関係の書籍など、それぞれの課題に取り組み。休憩は、各人自由にとることができる。パソコンは、能力アップを目的しているのではなく、作業のツールとして使っている。もちろん仕事にも役立つ。また、キャリアアップの模擬試験に取り組みが、正答率をあげることが目的ではない。それでも、つい結果が気になってしまふ、という。復職の日が近づくと、いつもより緊張したり、期待に胸がふくらんだりする。火曜日が卓球などの軽いスポーツで、水曜日がグループディスカッションとなる。ペースは、各人の状態

ほとんどの人が5カ月から7カ月で卒業

参加の条件は、会社に籍があることだけだが、定員制をとっている。で、卒業した人の補充という形になる。そのため、申し込んでも3カ月ほどは待たなければならぬ(待機期間は、時期によって異なる)。定められた課題を修了して卒業、というのではない。体調が安定し、再発しないための予防策を考えられるようになる。つまり職場に戻っても体調を崩さないでやっていけると

いう気持ちができたと、ここで卒業となる。早い人では2カ月、ほとんどの人は5カ月から7カ月ほどで卒業している。

集中力や持続力も高まる。さらに、プログラムに参加することを通して活動性を高めるとともに、参加者どうしで交流しながら対人交流を拡大していく。

1回あたりの費用は、医療保険の3割負担で約700円、自立支援医療制度を利用すると約200円になる。

コミュニケーションは、ストレスから身を守るうえで欠かせない。たとえば、断れないためにキャパシティを超えて仕事を引き受けてしまえば、身が持たなくなってしまう。水曜日には、具体的なテーマを設定したロールプレイなどもおこない、対人交流力を高めるようにしている。

日常生活リズムを改善し、そこから問題解決能力の再獲得へ

第1のステップは、日常生活のリズムを改善すること。毎朝9時半「出勤」のための準備から1日の生活リズムを整えていく。また、通勤時間帯に交通機関を利用して通勤ラッシュに慣れるように訓練する。生活のリズムが整ってくると、基礎体力もあがって疲れにくくなり、

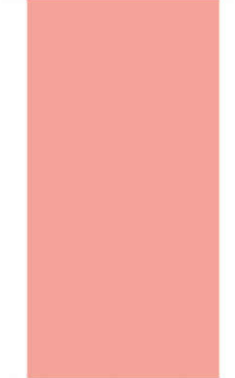
集聚力や持続力も高まる。さらに、プログラムに参加することを通して活動性を高めるとともに、参加者どうしで交流しながら対人交流を拡大していく。コミュニケーションは、ストレスから身を守るうえで欠かせない。たとえば、断れないためにキャパシティを超えて仕事を引き受けてしまえば、身が持たなくなってしまう。水曜日には、具体的なテーマを設定したロールプレイなどもおこない、対人交流力を高めるようにしている。

適切なストレスを経験する訓練

「職場復帰援助プログラムでは作業療法士ならではの特性が大いに生きる」と言う岡崎さんは、さらにこう語る。「通常のリハビリテーションでは、なるべくストレスがかからないように配慮するのですが、このプログラ

ムでは、その人の体調を踏まえて段階づけをしながら、適切なストレスをかけていきます。病院と職場の環境の間にある大きなギャップを埋めるために、意識してストレスを経験しなければならぬからです。

このプログラムでは、ゴールが明確で、参加する人も共通の目的を持っていて、互いに支え合う力が働くようにスタッフがサポートすることが大切です。卒業後に体調を崩しても、参加者どうしでメールのやりとりなどをして、支え合って体調を戻している例も多いのです。主治医の診察の場面では大丈夫と思われても、実際に作業をしてみると「まだまだ」という場合もあります。実際にやってみないとわからないのです。それぞれの人が、生活と作業を通じて多角的多層的にみる訓練をつんでいる作業療法士が産業保健のチームのなかに参画できれば、もっと大きな力を発揮すると思います」



Illustration/安田みつえ



障害があっても 仕事はできる



梶さんのデスクのまわりで、パソコン作業など実務訓練を行う委託訓練。パソコンの上達が目的でなく、休息のとり方、さまざまな作業との組み合わせ方などを通じて、作業分析が行われる（プライバシー保護のため写真を加工）。



常用労働者56人以上の民間企業は、1・8%の障害者を雇用しなけられなければならないことが、法律で定められている。そのため、この基準を満たさそうとして人材を求める企業と、働きたいと望む障害者をつなく民間会社がある。

㈱アドバンテッジリスクマネジメント（東京都目黒区）に勤務する梶直美さんは、そうした仕事に携わる作業療法士である。梶さんの仕事の流れは、おおむね次のようになる。

①仕事を求める人がインターネットを通じて登録する。高次脳機能障害、人工透析、うつなど、身体障害者手帳（1級～6級）や精神保健福祉手帳を持つ人などが登録する。

②面談。企業に提出する書類に障害の内容を詳しく書き、さらに企業側に配慮してほしいことをコメントする。また、別のコンサルタントが職務経歴を聞き、書類の書き方などについてアドバイスする。

③企業からきている求人の中から、マッチするものを選んで紹介する。そこでは、業務全体の流れの中から出人にできる仕事や「切り出し」を含めて、出人にどのような仕事があるのか、当人の特徴と個性を踏まえて企業と業務を選択する。

④就職が決まった後は、定着できるようにフォローする。

⑤さらに、06年4月からは、委託訓練生に就労の訓練をしている。

スムーズに仕事ができるようになった。記憶が苦手でも、ものごとを関連づける思考そのものに支障がないからだ。

職場に向いてフォローするのは、そうした契約がされている場合であり、電話やメールだけのフォローを契約している場合は、そうはいかない。毎日シミュレーター作業ばかりでつまらない」と言われても、「もう少しがんばって」としか伝えられない。「職場に向いていけば、もっと良い方法が見つかると思っ

面談は梶さんと大森さんのふたりのコンサルタントで行う。梶さんは障害の内容を詳しく聞き、自己PRの仕方をアドバイスし、さらに企業側に考慮してほしいことなどのコメントを入れる。大森さんは職務経歴を担当。書類に不備があったり、読みにくかったりすると、入口でアウトになるので、大切なプロセスである。



梶直美さん
1959年生まれ
1982年作業療法士免許取得
2004年10月より
(株)アドバンテッジリスクマネジメント勤務

仕事と生活の すみずみまでフォロー

このビジネスは、人材を紹介した会社からの手数料で成り立っている。時間と手間をかけて面談して自己PRの書類を作成しても、ハローワークで別の会社に就職が決まってボランティア仕事になることも多々あるという。

聴覚に障害のある人とは、登録から就職までに百通ほどメールのやりとりをする。自己PRの仕方や仕事の内容の説明はもちろん、面接にほとんどな服装をしいたらよいかといったことから、就職した会社に通いやすい部屋を見つけるために不動産業者と交渉することまで、生活のすみずみにおよぶメールのやりとりがなされる。

業務全体の流れの中から障害者 ができる仕事を「切り出し」

さまざまな職種の子会社の代表者や人事担当者、職業センターの関係者など15人ほどの人たちが月に1回集まる「職域開拓研究会」。梶さんは、その事務局を引き受けている。「非常に良い勉強場になっています。企業の中にはなかなか仕事があるかわからなければ、職域開拓のアイデアは浮んできません。在宅で仕事ができるようになるためには、どうすればいいのか。実際に、こんな障害者を持った人が、こんな仕事をしうまくいった。こうした情報から貴重なヒントを得ることができま

す。私たちは、業務全体の流れの中から、障害者ができる仕事を切り出します。障害があるから、病気があから、仕事をするのは無理だ、と勘違いしている人が多いですが、そうではありません。障害があることではなく、体のために切り出した仕事や滞り、業務全体が滞ってしまったのが困るのです。聴覚に障害があっても、失語症でも、コミュニケーションが苦手でも、その人ができる仕事を切り出し、それぞれに工夫すれば、仕事ができるのです」。笑顔、顔を絶やさない梶さんの日は、輝いていた。

介護保険で利用できる福祉用具の選び方

ポータブルトイレ

排泄動作は障害の有無や年齢に関係なく、日常生活においてとても重要な行為のひとつです。トイレで排泄できる方法を希望される方が多いですが、トイレまでの移動や衣服の処理などが困難な場合や、夜間のトイレ利用が困難な場合には、主として寝室で利用できる簡易トイレ（ポータブルトイレ）を利用するとよいでしょう。

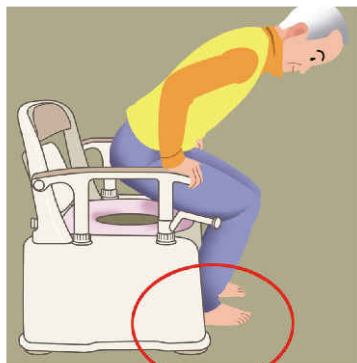
選ぶ時のポイント

立ち上がり時の蹴りこみがある

ポータブルトイレから立ち上がるとき、足を引く部分が十分ないと立ち上がりにくくなります。



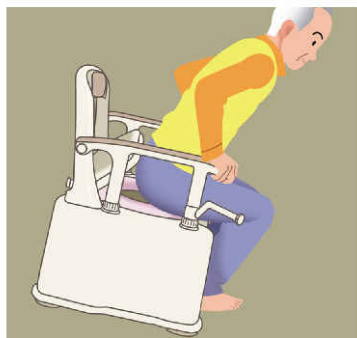
蹴りこみがない



蹴りこみがある

重さ

ポータブルトイレは機種によって重さが違います。足を引く部分があっても軽すぎると、ポータブルトイレが持ち上がり、前方へ転倒する危険があります。一方、重すぎると、持ち運びが不便です。



実際に使う人の身体や生活スタイルにあわせて選びましょう。

詳しくは作業療法士におたずねください。



Illustration/築盛忠

ポータブルトイレのいろいろ



●標準型（プラスチック製）
軽量で持ち運びしやすい。



●木製の椅子型
見た目が椅子なので居室にあっても違和感がありません。また、重量があるため安定しています。

●金属製コモード型
道具を使わず、簡単に座面の高さを調整できます。

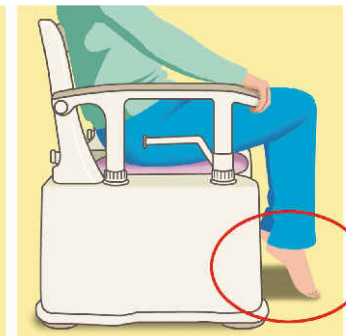


●ベッドサイド設置型
手すりの短い側をベッドのわきにおくと、手すりにつかまりながらベッドから移動できます。



座面の安定性

ポータブルトイレによって座面の幅や高さが違います。体に合わないと座位が不安定になることがあります。足が床にしっかり接地できる高さがよいでしょう。



においの解消やより清潔感を保つには

- 排泄後のにおいが気になる時は、脱臭機能付きのポータブルトイレがあります。
- 温水洗浄便座付きタイプもあります。
- 部屋に換気扇を取り付ける方法もあります。
- 尿を固めるパウダーもあります。

INFORMATION

日本作業療法士協会からのお知らせ

パンフレットのご案内

当協会では、次の5種類のパンフレットを用意しております。
作業療法の啓発活動などにご活用ください。
お申し込みは協会事務局まで。

- 作業療法ガイド (A4版12ページ 英語版、北京語版、ハングル版もあります)
- 精神に障がいのある方の生活・就労を支援する作業療法 (A4版4ページ)
- 作業療法士(OT)は、あなたにあった福祉用具や住宅改修を提案します (A4版両面)
- 訪問リハビリテーション 作業療法(OT)のご案内 (A4版両面)



なお、作業療法について解説したDVDも用意しておりますので、協会事務局までお問い合わせください。

医療・福祉・保健サービスの向上をめざして

当協会は、昭和41年9月に発足した作業療法士(国家資格)による職能団体です。昭和47年には世界作業療法士連盟(WFOT)に加入し、昭和56年には厚生省(当時)より公益法人として認可されました。作業療法士の学術研鑽や人格資質の向上に努めながら、作業療法の普及・発展をはかるとともに、医療と福祉の向上、国民の健康の発展に寄与することをめざしています。



Let's challenge

片手でやってみよう 11

上着を着る

片手で上着(かぶりタイプ)を着るときのコツを紹介します。

どうやって着るの?

片手で着るときポイントは袖を通す順番です。



ここからチャレンジ! さあ、やってみよう!

- 1 膝の上に背中部分が上にくるようにひろげます。
- 2 まひしている手を通します。
- 3 まひしていない手を通します。
- 4 上着をまとめて頭を通します。
- 5 上着の前後を整えて完成。

肩を直す時は……

えりから手を入れます。

Illustration/柴藤忠

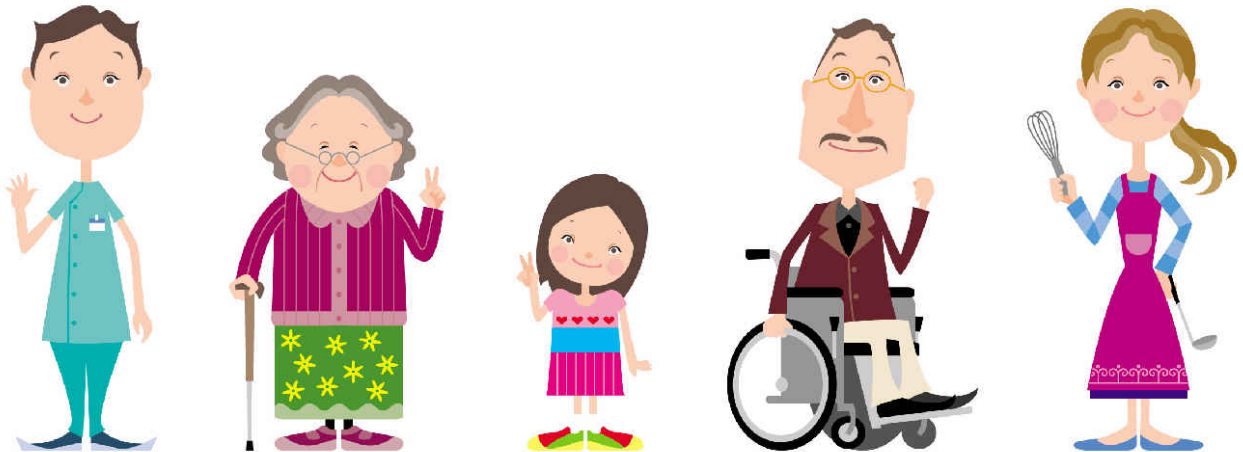
こころ豊かに生き生きと

ご存知ですか？ 作業療法のこと

作業療法は、Occupational Therapy (OT) に由来する言葉です。
この場合の「作業=Occupation」は、「なにかをして時間を占める」
という意味です。そこには、労働や日常生活はもちろん、
趣味や遊び、創造活動など、人が人として生きていくのに必要な、
あらゆる活動が含まれます。

作業療法では、こうしたすべての「作業」が
一人ひとりにあった、治療の手段にも達成目標にもなります。

そこで、私たちOT協会の広報誌をOperaと名づけました。
「作業」という意味のラテン語です。
作業療法に関する面白くて役に立つ、
親しみやすい誌面づくりをめざしています。



Illustration/カモシタハヤト

JAPAN 社団法人
日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

事務局 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル
TEL 03 (5826) 7871 FAX 03 (5826) 7872
<http://www.jaot.or.jp>